

## 幼稚園の教員評価および実習にもとづく 早期防災教育としての絵本教材とその評価 —市民の防災力向上に向けて その3—

正会員 ○ 小川 裕美\*1  
正会員 石川 孝重\*2  
正会員 伊村 則子\*3

絵本 教育 幼児  
幼稚園 教員 防災

### § 1 はじめに

前報で示した防災絵本の実効を上げるため、調査から抽出された幼少期の防災絵本に必要な項目や工夫を考慮して制作した絵本を、再度幼稚園で試行し、現場の評価を受けることにした。これにより、より高く幼稚園のニーズにあった防災絵本を完成させることができる。

### § 2 試作と調査

まず、幼児に携わる専門家の意見として幼稚園の先生に絵本の絵コンテを見てもらった。その結果、子ども自ら扱う防災グッズとして、特に防災頭巾を強調し、地震の恐怖感との兼ね合いで安心感を与える表現を加え、修正した。また、場面4の幼稚園のシーンは「複雑な印象を与え、子どもがストーリーを理解しづらくなっている」と指摘されたため、削除した。

次に、防災の専門家にも一通り絵コンテが完成した段階で意見をもらった。第一に「幼児には地震の準備に関する表現が難しい」という意見を得、表1に示すように、子どもがすべき行動と大人がすべき行動を分類した。そして、子どもがすべき行動は強調して示し、大人がすべき行動の表現には母ザルを登場させて、大人が対処する展開へと改善した。

表1 防災項目の分類

	項目	子どもがすべき行動	大人がすべき行動
初期 対 処	机の下にもぐり身を守る	●	●
	扉を開け、逃げ道の確保		●
	火を消し、初期消火		●
備 え	防災頭巾の使用	●	●
	懐中電灯の備え		●
	非常持ち出し袋の扱い		●
	家具止め		●

また、前報の園長に対するヒアリング調査で、「保護者に対しても、子どもとあわせて防災や安全に関する啓発の必要がある」と指摘されたことを考慮し、図1のように絵本の読み手となる大人にも防災の役割を与えて、保護者の防災意識が高まるように工夫し、修正した。それに伴い、地震発生直後の初期対処として机の下に入って身を守ることを表した場面でも、図2のように母ザルを登場させ、全体にまとまりをもたせた。

第二に、「室内散乱の場面で、周りの家具や皿、本が倒

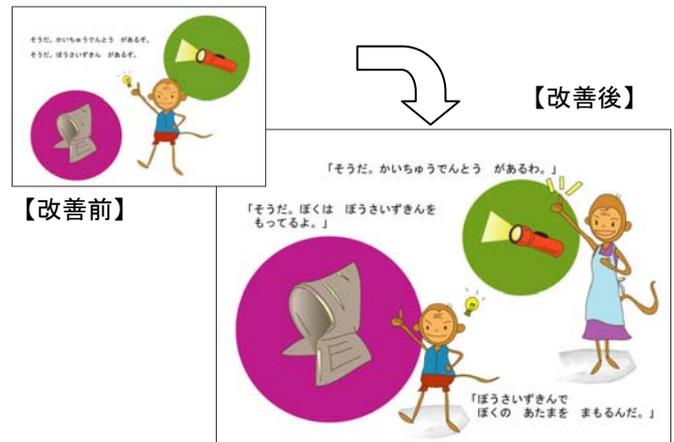


図1 母ザルの挿入(1)

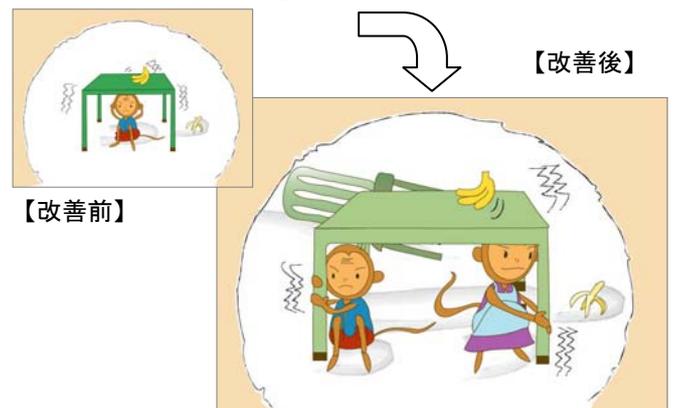


図2 母ザルの挿入(2)

れているのに、当人には物理的な損傷がなく、無傷な点に違和感がある」とのコメントを参考にして、図3のようにウサギには、子どもが恐怖心を持ちすぎないようケガをおう表現を控えめに加筆することにした。

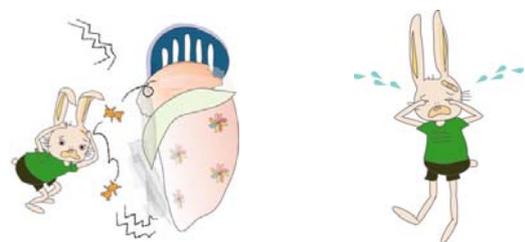


図3 追加したケガの表現

続いて備えの重要性に関し、図4のように、ウサギの家の家具転倒の表現とサルの子の家具止めの表現を対比させることで、備えで危険が回避できたことを表現した。

## 〈ウサギ〉



## 〈サル〉



図4 ウサギの家とサルのお家の対比

ウサギとサルのお家の地震への備えの対比から防災の大切さを学んだ主人公が、自分の家の備えを確認する場面では、図5のように「さまざまな防災グッズをひとりで準備する様子」を描いていたが、プレ調査では幼児教育者と防災専門家の両者から、防災グッズの内容が高度であり、幼児の防災グッズは防災頭巾で十分だと指摘されたことをふまえ、「主人公が親子で地震の備えを考える様子」に改め、再び繰り返して備えの重要性を表現した。そして、家族会議のイメージを加えて家族とともに備えを確認するよう改善した。



図5 家族と備えを確認する場面

## §3 評価と改訂

改訂した防災絵本の成果を確認するため、私立幼稚園2園に、年長児（計132名）への読み聞かせとその教

員（計4名）へのヒアリングを行った。年長児は最後まで真剣に物語を聞いており、興味の度合いは高いといえる。さらに、「地震は怖い」「家では水を用意している」など絵本の内容と自分の体験を重ねて理解している発言もあり、主題である「地震の危険性」「地震の備え」が子どもに十分伝わったことがわかる。つまり、対象年齢に適した内容であったと評価できる。また、幼稚園の教員からは「絵本の意図を読み手に伝わるように表現してはどうか」という提案があり、絵本で教えたい事項に関し、図6のように保護者や教員に向けた解説を加えた。



図6 「地震への備え」の解説ページ

また、「穴の中の出来事が夢だったことを暗示する場面を、もっとわかりやすくするとよい」という意見があったため、図7のように、言葉によって直接的に伝わる表現を加筆し完成させた。

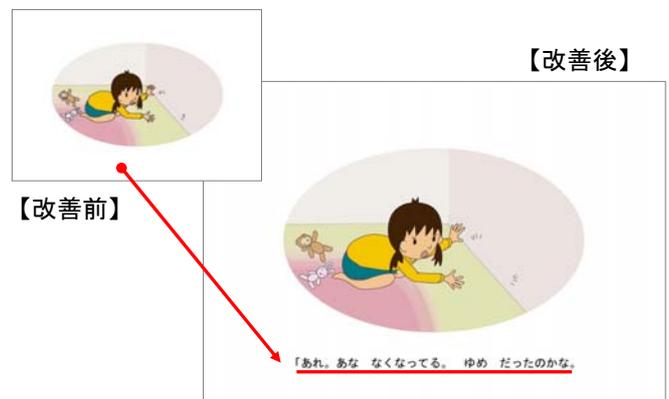


図7 評価による表現の修正

## §4 おわりに

本報では、防災の立場からだけではなく、幼稚園の教員・園児の両者の評価を絵本に反映させ、使用者ニーズにあった子どもの心に響く絵本として完成させた。その絵本を実際に現場で読み聞かせたところ、子どもや先生方に防災を考えてもらうことができた。

幼稚園では保護者参加の引き渡し訓練が実施され、保護者に対する教育も課題とされていることから、本研究で制作した絵本教材を使用し、保護者への波及効果が期待できる。防災絵本は、幼稚園で子どもが体験した訓練事項を体系化する役割を果たし、特に年長児にとって平時から対応行動を考えるきっかけとなることがわかった。幼稚園の実態調査にご協力戴いた方々に深く感謝する。

\*1 松下電工SFG株式会社  
\*2 日本女子大学住居学科 教授・工学博士  
\*3 武蔵野大学環境学科 講師・博士（学術）

\*1 Matsushita Electric Works SFG, Ltd.  
\*2 Prof., Dept. of Housing and Architecture, Japan Women's Univ., Dr. Eng.  
\*3 Lecturer, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.